防　災

緊急災害対策派遣隊（TEC－FORCE）

<主な派遣実績>	隊員数（人）	のべ人数（人・日）
R3年　1月7日大雪	45	79
R3年　台風第10号	9	42
R3年　福井県記録的短時間大雨	9	42
R3年　12月25日からの大雪	26	54
R4年　8月4日からの大雨	41	117
R4年　台風第14号	2	4
R4年　鳥インフルエンザ	2	2
R5年　1月24日からの大雪	64	116
R5年　奈良県十津川村長殿での土砂崩落	3	4
R5年　台風2号及びそれに伴う前線活発化による大雨	14	20
R5年　兵庫県南あわじ市における豚熱	1	1
R5年　台風第7号	17	19
R5年　奈良県下北山村国道169号での土砂崩落	14	20
R6年　能登半島地震	316	2198
R6年　石川県能登半島地方での大雨	58	383

災害対応

照明車による夜間復旧作業
【令和4年5月奈良県の斜面崩落】

被災状況調査
【能登半島地震】

広域陸路確保訓練（遠隔バックホウ使用）
【2024大規模津波防災総合訓練】

給水支援（石川県派遣）
【能登半島地震】

乗員保護支援
【令和5年1月24日からの大雪】

防災教育
【令和6年11月　防災教育授業】

防災訓練・教育

南海トラフの巨大地震・津波等に対する取り組み

【直轄国道の被害想定】

	浸水延長	橋梁の重大な損傷	海岸擁壁の重大な損傷	ガレキの堆積
和歌山県	約100km	53橋	約20km	約30km

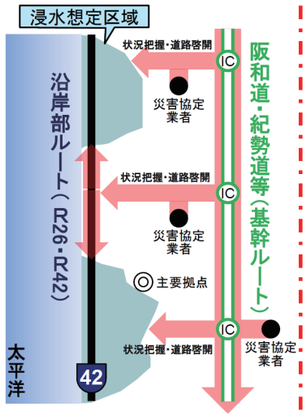
和歌山・紀南河川国道事務所調べ　平成26年5月現在

和歌山県 道路啓開計画(R7.1改訂版)より

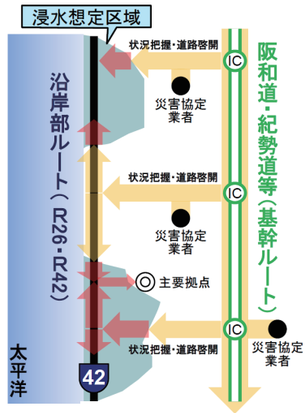
【道路啓開計画】

■「和歌山県道路啓開計画（R7.1改訂版）」では、津波被害想定をもとに、緊急輸送道路ネットワーク等を考慮し、優先的に啓開すべき道路を『啓開ルート』として選定
■人命救助を目指した救助・救援ルートを確保するため『道路啓開』の段階目標を設定

【STEP1⇒発災後、24時間以内概ね完了目標】
基幹ルート、及び沿岸部への進出ルート等(浸水想定区域外)を確保



【STEP2⇒発災後、48時間以内概ね完了目標】
津波警報解除後、主要拠点(市役所等)への進出ルートを確保



【堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点】

■当該防災拠点は、南海トラフで発生する地震・津波等による大規模災害が発生した際に、「救援支援物資の中継・分配機能、海上輸送支援機能、広域支援部隊の集結地・キャンプ機能、災害医療支援機能」等の重要な役割を担うとともに、平常時は市民の憩いの広場として利用。

【地震発生時における応急活動】

■発災後速やかにヘリや CCTV等を用いた被災状況調査を実施するとともに、TEC-FORCE を派遣し、津波浸水地域では排水ポンプ車による排水活動を関係機関と連携して実施。

インフラＤＸ

インフラ分野のDX（*D*igital *X*formation）の推進

詳しくはこちら →

近畿地方整備局HP　近畿インフラDX推進センター

データとデジタル技術を活用し、国民のニーズを基に社会資本や公共サービスを変革するとともに、業務、組織、プロセス、建設業や職員の働き方を変革し、安全・安心で豊かな生活を実現すべく、取組みを推進します。

近畿地方整備局におけるインフラ分野のDXの取り組み

行政手続きなどサービスの変革

行政手続き等の迅速化

- ◆ 道路データプラットフォームの構築による維持管理の効率化
- ◆ 三次元管内図を活用した浸水想定区域の表示
- ◆ 危険箇所等におけるリモートによる土地境界確認

氾濫による浸水想定区域の表示

暮らしにおけるサービス向上

- ◆ 河川現況台帳デジタル化による河川管理の効率化・高度化
- ◆ 建設産業関係手続のオンライン化

CONPASによるゲートでの手続きを簡略化

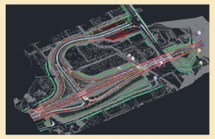
暮らしの安全を高めるサービス

- ◆ 公園内を活用した自動運転技術の実証実験
- ◆ 阪神港におけるCONPASの導入によるコンテナゲート処理の効率化

仕事のプロセスや働き方を改革

業務プロセスの変革

- ◆ BIM/CIM活用による建設生産システムの効率化・高度化
- ◆ 営繕事業におけるEIRを適用したBIM活用
- ◆ RPAを活用したワークスタイルの改善
- ◆ 登記オンライン申請の推進



BIM/CIMデータの活用

点検・管理業務の効率化

- ◆ 被災状況調査から災害復旧工事へのシームレス化
- ◆ 都市公園台帳等のクラウド化による公園管理の効率化・高度化

スマート公園管理システム

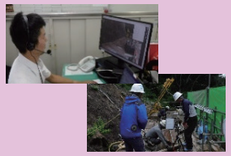
人材育成支援

- ◆ 3次元データやデジタル技術等を活用できる人材育成（整備局・自治体など）
- ◆ RPAを活用したワークスタイルの改善
- ◆ 地方公共団体によるまちづくりDXの取組の支援

現場の安全性や効率性を向上

安全で快適な労働環境を実現

- ◆ 無人化施工による安全性の向上
- ◆ リアルタイムデータ活用による TEC-FORCE活動の迅速化
- ◆ 災害時の危険個所調査の迅速化



遠隔臨場状況

AI等の活用による作業効率化

- ◆ 通信不感地帯での遠隔臨場による監督検査
- ◆ CCTVのAIカメラ化による交通障害の自動検知
- ◆ 地下埋設物件情報を3D化で把握・電子化
- ◆ ドローンによる全自動飛行で施設点検（砂防）の高度化・省力化
- ◆ AIを活用したダム管理の高度化

立ち往生の自動検知

デジタル化で効率的に技能を習得

- ◆ 3次元施工データの作成マニュアルの活用

建設業の働き方改革推進

土木工事書類作成スリム化ガイド

工事書類のスリム化を図るとともに、受発注者間における資料作成の役割分担を明確化することで書類作成に要する時間を縮減し働き方改革を推進する。

受発注者コミュニケーションガイド

受発注者間のコミュニケーションを図ることで、適切な設計変更や協議の迅速化など適正かつ円滑な工事請負契約の履行を行い働き方改革を推進する。

業団体へのアンケート結果等を反映した改訂版を作成し、受発注者双方の更なる働き方改革を推進します。

インフラ分野のDXを推進するための人材育成

近畿インフラDX推進センター（大阪府枚方市）を拠点とし、デジタル技術に関する知識や技術を習得することで、BIM/CIM、ICT施工、3次元データなどを活用できる人材育成に取り組んでいます。
また、地方公共団体や企業等、官民の人材育成支援も行い、インフラ分野のDXの推進を目指します。

近畿インフラDX推進センターとは…
DXを推進する人材の育成と確保を目的に「育成」「体験」「情報発信」を行っています。

ICT施工研修風景

BIM/CIM研修風景

体験
学生、一般、外国人研修生向けのインフラDXの体験
- ➢ 遠隔臨場、AI、VRなどのDX体験
- ➢ 民間の新技術、NETIS技術を動画により紹介

育成
国・地方公共団体、施工者向けに研修を実施
- ➢ BIM/CIM、ICT施工の体験と実務研修
- ➢ 無人化（遠隔化）施工体験と実務研修
- ➢ 生産性向上に関する研修

情報発信
ホームページ、ＳＮＳ等で情報発信
- ➢ 企業が取り組む新技術の情報
- ➢ 官民のi-Con、BIM/CIMなどの取り組み
- ➢ DX大賞、DXコンペなど地域建設業の取り組み